# さざんか

かとう学園　宗像市立河東中学校
学校通信第28号（R5. 9. 25）

先週末、第2回定期考査を行いました。今日から答案返しが始まり一喜一憂していることでしょう。様々な機会に話してきたように、大切なのは結果よりも成長です。この考査を通していかに成長したか。採点後の答案とどう向き合うのかも大事なことです。〇と×をもとに、自分がわかっていることとわかっていないことを整理できるかです。わかっていなかったことを明らかにして、学びなおす材料にしましょう。やり直しは、めんどくさいことですが、自分を成長させる大切な手続きです。

また、今週から新たな目標を設定して取り組みましょう。9年生は、息つく暇もなく10月2日の進路テストに向けての準備を急がねばなりません。8・7年生は新人戦や作品作りに切り替えましょう。そして、全校挙げて合唱づくりに全力を傾けていきます。ようやく気温が和らいできた中、実り多い秋を迎えましょう。

## 授業研修の風景

先週は、2本の授業研修を行いました。石井先生と野口先生の道徳の授業です。2人が公開した道徳科の授業についてお知らせします。

河東中では、道徳科の授業づくりにも力を注いでいます。教師全員が年間1回は道徳の授業の公開をします。先週、9年生で2本の公開授業が行われました。石井先生と野口先生の道徳。どちらも共通して優れた道徳の授業でした。対照的だったのは、石井先生は道徳の理想的でお手本となる授業を提示したのに対して、野口先生はこれまでになかった新しい手法の道徳の授業を提案したことです。石井先生は教科書を使った王道を行く道徳を公開し、野口先生は教科書から離れて歌の歌詞を使いビンゴゲームとして授業を展開しました。また、9年生の道徳の授業への向き合い方、追求のしかたにも感心させられました。

### 石井先生（道徳）

進路主事である石井先生が、教科書にある「合格通知」という進路を題材にした授業。進路実現目前の今の9年生に、自分の経験も踏まえての9年4組で行われた道徳授業。

合格通知を安易に SNS に投稿したことで引き起こされた問題に対して考える道徳。問題点はどこにあるのかを個人で考え、ロイロノートを使ってグループ協議しました。9年4組は個々人の考えが深く、班活動も活発でした。学習の目的地（進路に向けてこれからどのようなことに気をつけて友達との関係を築いていくのか）が明確に定まった道徳の在り方が提示されました。

### 野口先生（道徳）

今までになかった道徳の手法を提案してくれた野口先生。ゲームの要素を入れるやり方。かつて一世を風靡したエンカウンターやピアサポートとも一線を画す令和型の新しい道徳の方法を野口先生と9年2組が試みたと言ってよいでしょう。

ケツメイシの楽曲「仲間」の歌詞を26節に分け、より良い集団になるために大切だと思う節を優先順に9つ選出し、クラス全体で共感する箇所をビンゴゲームとして交流するという方法。これは、男女の別なく活発に動いて交流できる9年2組だったから成立したともいえます。仲の良いクラスでないとこうはいかないでしょう。全く新しいタイプの道徳の授業を見ました。

# 「病院の外に健康な日を３日ください」
# ～大島みち子さんの日記に読む身近な人への思い～

　美しいもの・心揺れるもの・感動するものは、身の回りにたくさんあります。野に咲く花、小鳥の歌声、部屋に飾られた絵など。そんな中で、人の心ほど美しく、心揺さぶられ、感動を与えてくれるものはないのではないでしょうか。
　今回紹介するのは、みなさんより少しお姉さん・お兄さんの話です。ケータイのまだないころのちょっと古い話です。

　大島みち子さんという女性がいました。子どもの頃は勉強を頑張りスポーツにも親しむ健康的な子でした。
　その大島さんに異変が生じたのは、兵庫県立西脇高等学校に入学して間もなくでした。顔の軟骨の細胞がこわれていくという難病でした。その治療のため、高校は５年かかってようやく卒業しました。
　高校生時代の一番の思い出は、大阪大学病院に入院した際、同じ病棟で長野県出身の浪人生の河野　実君と出会い、互いに阪神タイガース・ファン同士で意気投合し、文通を始めたことでした。
　彼女は勉強も頑張り、京都にある同志社大学文学部に合格します。河野君は東京の中央大学に進学します。大学生になってからも二人の文通は途切れませんでした。しかし、大島さんの病気が再発し、長い入院生活となります。
　河野君は夏休みに大阪駅ホームのビール売りのアルバイトを続けながら大島さんを励ます。夏休みが終わって東京に戻った河野君との文通が、闘病生活の大きな支えになっていきます。河野君はその後もアルバイトをして長距離電話で励ましたり、旅費を工面して阪大病院に見舞いに行ったりします。
　しかし、病状は悪化し、大島さんは 22 歳の誕生日の前日にこの世を去っていきます。
　この大島さんが書き残したものを集めて出版されたのが『若きいのちの日記』という本です。この本のラストに描かれているハイライトを紹介します。大島さんはこうつづっています。

「病院の外に健康な日を３日ください。
　一週間とは欲張りません。ただの３日でいいから、病院の外に健康な日がいただきたい。

　一日目。私はとんでふるさとに帰りましょう。そして、おじいちゃんの肩をたたいてあげたい。
　母と台所に立ちましょう。父にあつかんを一本つけて、おいしいサラダをつくって、妹たちと楽しい食卓を囲みましょう。そのことのために一日がいただきたい。

　二日目。私はとんであなたのところへ行きたい。あなたと遊びたいなんて言いません。お部屋を掃除してあげて、ワイシャツにアイロンをかけてあげて、おいしい料理をつくってあげたい。

　三日目。私は一人ぼっちの思い出と遊びましょう。そして静かに一日が過ぎたら、三日間の健康にありがとうと、笑って永遠の眠りにつくでしょう。」

（参考文献『若きいのちの日記』『愛と死をみつめて』）